

一、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

この事件に対する社会の反応はさまざまだった。こういったことにそれまで関心のなかった人たちの多くは「科学者が人為的な手段で、してはならないことをしてしまったのではないか」といった①反応をした。そのようなことが可能になれば、自分と同じ人間をどんどんつくれるという恐ろしいことになる。ナチスドイツが試みたように、優性と判断された人たちだけを増やし、劣勢と考えられた人たちは消されていくのではないかと恐怖である。

(I)、一ヶ月たち二ヶ月たつて、いろいろな解説を読み、少し勉強をしてみると、最初に心配し、想像した世界とは少しちがった世界があらわれてくる。

クローン羊が出てくるまでに、すでにクローンはいろいろと試みられていた。植物では、昔からさし木などで、自分とまったく同じ遺伝子をもった木を増殖することが広くおこなわれていたし、マウスなどでも試みられていた。クローンではないが、遺伝子操作によって、病気や害虫に抵抗力のある新種の植物をつくり、食糧の増産につないでいくといったことはすでに産業化されているし、人間の母乳に近い成分をもつミルクを出すように牛を改良するといったこともおこなわれている。

クローン技術を確立し、うまく使えば、人類の将来直面するであろう食糧危機に対する一つの解決策となるかも知れないし、その他にもいろんな意味でわれわれの日常生活を豊かにしてくれるかもしれない可能性をもつ技術であるという②期待感も生まれてくる。ただ人間については、このようなことはやめてもらわねばならない、というわけである。

クローン技術に対する各国の反応はさまざまだった。イギリスやドイツ、デンマークなどは、人間のクローンについては全面的に禁止ということを国会の議決によって決めている。日本においても文部科学省の学術審議会がいろいろと議論の末、その禁止を決めた。ところがアメリカは、その国のもつ本質的な多様性からか、この問題に対して一つの結論を打ち出すことができず、とりあえず五年間は禁止、その間によく検討するという、判断のa引きのばしの形になってしまっている。

クローン羊のさわぎの過程を検討することで、社会と科学の関係、社会に科学が受け入れられる一つの型が浮かび上がってくる。このクローン論争は③つぎのような形に整理できるだろう。まず、クローン羊がつけられたということに対してあまり反応をしめさない、あるいはしめせない段階である。この段階では、社会は全般的にクローンということの意味が分かっていないのだから、b反応がないのはどうぜんであろう。

しかし、新聞などで多くの人がその内容を知るにおよんで、科学技術はなんだかc気味の悪いことをやりはじめたのではないかとという心配、しかし深い理由のない本能的なd困惑をともなった驚きがあらわれてくる。そこで発せられた質問は、なぜそんなことをしたのかということであろう。

④この段階に入ってくると、最初の拒否反応とはちがつて、科学の発展過程としてどうぜんおこなわれることがおこなわれたこと、そしてそれは人類に恩恵をもたらす可能性のあることだとわかってきて、その行為を肯定するか、少なくともかたんに否定はできなくなる。それは理性の世界、論理的には肯定的に理解できる世界であるが、一般の人々には、「科学者はそういうかもしれないが、それは正しいのかもしれないが、それにしてもe割り切れない何ものかが残る。自分には心の底から同意することができない」という感覚がわきおこってくる段階である。

その結果、この技術を人間に適用したらどうなるのか、科学者といえども何か想像できない状況がおきる可能性があるのではないかといった疑問と不安が生じてくる。各国が急いでクローン技術の人間への適用を禁止したのは、そういったところに理由があるだろう。とりあえずは禁止ということにしたわけだが、そのよって立つ根拠は何なのかについては、科学的思考の範囲内で説明できるものかどうか、疑問の残るところである。現に⑤アメリカでの議論は、一定の方向に収れんさせることができなかったわけである。

(II)、あることがらが知らされたとき、それを表層的に理解し、自分のもつ論理の体系では受け入れられないとして反発する、あるいは少なくともなぜそのようなことを、という疑問を呈するのが第一段階である。そこでつぎの段階として、そのことからその内容、それが出てきたf経緯、それが目指すものなどについて知り、また考えることによって、そのことから一段深いレベルで理解することになる、多くの場合、その理解は納得と承認を与えるということを伴う。これが第二段階である。

ところがそれでも疑問がわき上がってくることが多い。それはそのことがらが説明された条件、あるいは想定されている領域の内に限ればまったく異論はない理づめの説明であるが、その条件が成立しなくなったり、また想定されている領域をこえて適用されたりしたらどうなるのか、という疑問であり、⑥これは通常はてしなく広がっていくのである。

問一、二重傍線部 a (解答番号 1) と同じ意味になるように、次の () に入るものを選び答えなさい。

() おくり 1、のべ 2、やま 3、さき 4、かた

問二、二重傍線部 b (解答番号 2) ・ c (解答番号 3) を三字熟語で表現した。() に入る漢字一字を後の語群よりそれぞれ選びなさい。

b () 反応

c () 気味

【語群】 1、不 2、未 3、非 4、無

問三、二重傍線部 d (解答番号 4) ・ f (解答番号 5) の語の意味に最も近いことをそれぞれ次から選びなさい。

d 困惑 1、あきらめ 2、とまどい 3、ためらい 4、くやむ

f 経緯 1、いきさつ 2、しがらみ 3、よりどころ 4、はんい

問四、二重傍線部 e (解答番号 6) に最も近いことを次から選びなさい。

1、つまらない 2、納得しがたい 3、言い返せない 4、片づけきれない

問五、空欄 I・II に入る接続詞としてもつとも適当なものを次から選びなさい。(I・解答番号 7、II・解答番号 8)

1、たとえば 2、しかし、 3、つまり 4、なぜなら

問六、波線部 ①とあるが、この「反応」は何から生まれるものか。次から一つ選びなさい。(解答番号 9)

1、科学者に対する不信任 2、科学への偏見と反感

3、人間の尊厳を無視された怒り 4、人間の本能的な困惑

問七、波線部 ①から②までの間に起こったことを次から一つ選びなさい。(解答番号 10)

1、人々がクローンについて知り、深いレベルで理解する。

2、人々の間でクローンについての論争が起こり、次第に意見が集約される。

3、クローン技術が実際に応用され、社会に恩恵を与える。

4、時間の経過とともに、クローンへの人々の関心が薄れていく。

問八、波線部 ③とあるが、クローン論争の過程を次のように示したときに空欄にはどんなことが入るか、それぞれ適切なものを選びなさい。

・ 反応をしめさない

←

・ 本能 ↓ 反発する

←

・ () (11) ↓ 論理的に理解し、納得と (12) を与える

←

・ () (13) ↓ 新たな (14) と不安がわきあがってくる

【語群】 1、承認 2、感情 3、理性 4、疑問 5、事実

問九、波線部 ④はどんな段階か、次から選びなさい。(解答番号 15)

1、人々がクローンについてひと通りの知識を得た段階

2、はじめてクローン羊の存在が世間に報じられた段階

3、社会全般がクローンの意味を理解できなかった段階

4、国家単位でクローン技術の是非を議論している段階

問十、波線部 ⑤はなぜか。次から選びなさい。(解答番号 16)

1、アメリカ社会では、必ずしも科学技術に対する知識水準が一定ではなく、ひとりひとりの知識の隔たりが大きすぎるから。

2、論理的な思考の範囲内ではおさまらないような問題では、アメリカ社会のもつ多様性が、そのまま議論に反映されるから。

3、現代社会において最も豊かな国であるアメリカにおいては、とりたてて、クローン技術がもたらす恩恵をあてにする必要がないから。

4、多様な価値観が混在するアメリカ社会にあつては、日常的に議論すべき問題もまた多様であつて、一つの問題ばかり論じるわけには行かないから。

問十一、波線部 ⑥はなぜか。次から選びなさい。(解答番号 17)

1、一般の人々が理解できるような十分な説明を、科学者がしようとしなから。

2、猛烈なスピードで社会を変えていく科学に、人々の意識が追いつかないから。

3、科学の進歩に対して国や行政による制御が後手にまわり、方向性を打ち出せないから。

4、理屈では理解できても、それでもどうしても疑問と不安が生じてくるから。

問十二、次のうち、本文の内容に合っているものを一つ選びなさい。(解答番号18)

- 1、科学的知識に乏しい一般の人々が、科学の進歩を遅らせている。
- 2、新しい技術が、人々の心からの理解を得ることはなかなか難しい。
- 3、科学者よりも一般の人々のほうが、科学の本質を深く理解している。
- 4、科学の進歩を止めないためには、国家による理解と保護が必要である。

二、19～23について、ことわざが完成するように、() に入ることはを1～4から選びなさい。

- | | | | | | |
|----|-----------|-----|-----|------|-----|
| 19 | 知らぬが() | 1、狐 | 2、仏 | 3、河童 | 4、狸 |
| 20 | 光陰()の如し | 1、光 | 2、陰 | 3、矢 | 4、弾 |
| 21 | 乗りかかった() | 1、船 | 2、山 | 3、熊 | 4、家 |
| 22 | 寝耳に() | 1、蝸 | 2、蠅 | 3、蚊 | 4、水 |
| 23 | 魚心あれば()心 | 1、川 | 2、水 | 3、雫 | 4、沼 |

三、24～26について、次の熟語の意味をそれぞれ選びなさい。

- | | | | | | |
|----|----|-----------|------------------|-----------|-------------|
| 24 | 屈指 | 1、服従すること | 2、すぐれていること | 3、指の骨折 | 4、曲がり角 |
| 25 | 会得 | 1、利益を得ること | 2、よく理解して自分のものとする | 3、悟りを開くこと | 4、得すること |
| 26 | 寒村 | 1、寒い地方の村 | 2、人口の少ない寂しい村 | 3、豪雪地帯の村 | 4、病が流行っている村 |
| 27 | 看過 | 1、死を看取ること | 2、介護の幅を超えること | 3、見過ごすこと | 4、奥ゆかしいこと |

四、28～32について、傍線部にあたる漢字をそれぞれ選びなさい。

- | | | | | | |
|----|---------------------|-----|-----|-----|-----|
| 28 | 空気の <u>抵抗</u> を調べる | 1、抗 | 2、興 | 3、稿 | 4、講 |
| 29 | 責任を <u>転カ</u> する | 1、化 | 2、嫁 | 3、科 | 4、果 |
| 30 | 秘密を <u>暴口</u> した男 | 1、路 | 2、賂 | 3、露 | 4、労 |
| 31 | 新聞に <u>掲サイ</u> する | 1、歳 | 2、裁 | 3、栽 | 4、載 |
| 32 | 成績の向上が <u>顕チヨ</u> だ | 1、著 | 2、貯 | 3、楮 | 4、緒 |

五、33～38について、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

平安時代中期は摂関政治の全盛期である。権力者たちは、後宮に入内させた子女に天皇の関心を引かせるため、子女の女房に才色優れた女性を選んだ。女房たちは教養を競い合い、女流文学が開花した。和歌・a日記・b物語・随筆などの仮名書きの文学が中心であった。

中でも、一条天皇の中宮彰子に仕えた紫式部の『33』、一条天皇の中宮定子に仕えた清少納言の『34』は、後世の文学に与えた影響も大きい。

問一、『33』『34』に入る文学作品を次から選び答えなさい。

- | | | | | |
|----|--------|--------|-------|----------|
| 33 | 1、方丈記 | 2、土佐日記 | 3、徒然草 | 4、源氏物語 |
| 34 | 1、奥の細道 | 2、枕草子 | 3、大鏡 | 4、堤中納言物語 |

問二、傍線部aの代表的作品である次の35・36の作者を、それぞれ選び答えなさい。

- | | | | | | |
|----|--------|---------|-------|---------|--------|
| 35 | 『蜻蛉日記』 | 1、藤原道綱母 | 2、源順 | 3、赤染衛門 | 4、花山院 |
| 36 | 『更級日記』 | 1、和泉式部 | 2、紀貫之 | 3、菅原孝標女 | 4、藤原公任 |

問三、傍線部bとあるが、次の37・38の説明に合う作品を、それぞれ選び答えなさい。

- | | | | | | |
|----|--------------------------|---------|--------|--------|--------|
| 37 | 日本最古の作り物語。かぐや姫の物語。 | 1、宇津保物語 | 2、竹取物語 | 3、落窪物語 | 4、今昔物語 |
| 38 | 日本最古の歌物語。在原業平らしい「男」の一代記。 | 1、栄花物語 | 2、伊勢物語 | 3、平中物語 | 4、大和物語 |

平成二十三年度 「国語総合」 正解

平成23年1月29日

31	21	11	1
4	1	3	3
32	22	12	2
1	4	1	4
33	23	13	3
4	2	2	1
34	24	14	4
2	2	4	2
35	25	15	5
1	2	1	1
36	26	16	6
3	2	2	2
37	27	17	7
2	3	4	2
38	28	18	8
2	1	2	1
	29	19	9
	2	2	4
	30	20	10
	3	3	1